

滋賀県がん診療連携協議会・第1回緩和ケア推進部会

日時：平成27年7月6日(月)17:00～

場所：成人病センター東館1階講堂

【部会長】成人病センター 堀緩和ケアセンター長

【副部会長】公立甲賀病院 沖野院長代行

【部会員】滋賀医科大学 遠藤教授、滋賀医大病院 服部看護師長、大津赤十字病院 山本係長、滋賀県立成人病センター 吉田副センター長、滋賀県立成人病センター 辻森副主幹、彦根市立病院 秋宗看護科長、市立長浜病院 花木外科部長、高島市民病院 武田外科科長、高島市民病院 末武看護師長、大津市民病院 津田部長、大津市民病院 杉江主査、済生会滋賀県病院 野土副院長、近江八幡総合医療センター 赤松部長、長浜赤十字病院 中村部長、東近江総合医療センター 瀬戸山医長、滋賀県歯科医師会 西村事務局員（※代理）、滋賀県歯科衛生士会 村西会長、滋賀県がん患者団体連絡協議会 冨田運営委員、滋賀県がん患者団体連絡協議会 八木副会長（※代理）、成人病センター 打田主査

【事務局】成人病センター 地域医療連携室 石見参事、今堀副参事

【オブザーバー】成人病センター 岡村医療ソーシャルワーカー、成人病センター 嶋田主査

【欠席部会員】彦根市立病院 黒丸部長、大津赤十字病院 三宅部長、公立甲賀病院 柴田副部長、市立長浜病院 宮崎主幹、草津総合病院 木下部長、ヴォーリズ記念病院 細井部長、ヴォーリズ記念病院 谷川係長、岩本整形外科 岩本院長、滋賀県医師会 橋本理事、滋賀県歯科医師会 大西理事、滋賀県薬剤師会 馬場委員、滋賀県看護協会 日永所長、滋賀県がん患者団体連絡協議会 野崎運営委員、滋賀県健康医療福祉部 奥井主幹

○ 部会長あいさつ

(堀 部会長)

皆さんお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。緩和ケアセンター長の堀です。よろしくお祈いします。今日はたくさん議題がありますので少し早くいかせてもらいます。

早速審議事項に入りますけれども、議題1 平成27年度緩和ケア推進部会の取組内容およびスケジュールについて、事務局のほうから説明をお願いします。

【議題】

<審議事項>

1 平成27年度緩和ケア推進部会の取組内容およびスケジュールについて

(事務局)

平成27年度の緩和ケア推進部会の取組内容およびスケジュールについて説明します。(1)緩和ケアの研修については、既に、大津赤十字病院において第1回目の研修会を実施していただきましたが、年間6回の研修会を予定しております。さらに、フォローアップ研修も年1回予定しているところです。(2)看護師対象のELNEC-Jの研修ですが、年間2回の計画で、彦根市立病院と成人病センターで実施予定でございます。(3)緩和ケアをテーマにした講演会等ということで、世界ホスピス緩和ケアデー記念県

民公開講座を10月10日に予定しております。(4)緩和ケア推進に係る意見交換会については、本日の部会も含めまして適宜、意見交換を実施します。(5)緩和ケアの地域連携クリニカルパスの普及についても、運用促進にかかる方策等のご意見を交わしていただけたらと思います。(6)国立がん研究センター等研修派遣調整についてですが、国立がん研究センターの研修計画に基づき、必要に応じて検討していくことになろうかと思えます。

2枚目のアクションプランシートにつきましては、ただ今説明しました各事業、特に、緩和ケア研修会の受講率などを勘案しながら、評価していく予定です。

(堀 部会長)

ありがとうございます。ご意見質問等ありますでしょうか。実は4番目の緩和ケア推進に係る意見交換ですが、資料が今までなかなかできていなかった。最後に提案させていただきたいのですが、今年度意見交換の場で緩和ケアチームおよび緩和ケア病棟についての交流をしたいと思います。これはまた後で。よろしいでしょうか。それでは先に進みます。

2 滋賀県緩和ケア研修会について

①緩和ケア研修会開催要領および県医師会指定講習カリキュラム承認

②緩和ケア研修会の受講率について(部会事務局および県がん・疾病対策室)

③平成27年度第1回滋賀県緩和ケア研修会について(大津赤十字病院)

④緩和ケア研修会の済生会滋賀県病院での開催案について(済生会滋賀県病院)

(事務局)

滋賀県緩和ケア研修会について、①から説明します。資料は3ページです。今年度の緩和ケア研修会等を一覧表としてまとめています。6月に行われた第1回目の大津赤十字病院の研修は終了しています。現在、第2回目として8月に行われる成人病センターの研修の募集が行われており、7月8日までが募集期間となっています。以降、彦根市立病院、市立長浜病院、滋賀医科大学附属病院、公立甲賀病院の各病院において、年間計6回の計画を立てております。

4、5ページについては、参考までに成人病センターが募集している緩和ケア研修会の開催要項およびプログラムをつけています。7、8ページですが、この研修は、生涯教育制度の指定講習会として、県医師会の指定承認をいただいております。A・B研修ともに承認をいただいております。資料にアンダーラインを引いていますが、各開催病院は研修会終了後2週間以内に、県医師会へご報告(出席者名簿の提出)をいただきますようお願いします。以上が、「①緩和ケア研修会開催要領および県医師会指定講習カリキュラム承認」についての説明です。

(堀部会長)

ここまでよろしいでしょうか。

(事務局)

それでは次に、②緩和ケア研修会の受講率についてです。資料は9ページからです。国から各都道府県あてに、緩和ケア研修の完了計画の提出にかかる通知が届きまして、それに基づいて、平成27年3月19日付け滋賀県健康医療課長通知で各拠点病院長および各支援病院長あてに、緩和ケア研修完了計画書の策定が求められたところです。11ページはその説明書きになり、12ページはその計画書の雛型、13、14ページは「とりまとめ」ということになっています。13ページが拠点病院、14ページが支援病院の現段階での計画になっております。各病院の機能や諸事情で目標値にバラつきがあるのが現状ですが、最終的には主治医等は9割以上、研修医は100%の受講率を国が求めていることもありまして、今

回はこういった資料を提供して、これを基にご意見なりをいただけたらということでもとめたものです。

(堀 部会長)

13、14 ページ見ていただくと、これは大変だと思われたのではないのでしょうか。成人病センターでも 79%、大津赤十字病院でも 75%で、少し厳しいなと思うのが滋賀医科大学附属病院、公立甲賀病院、90%達成するのが非常に厳しくなっておりますし、実際問題として、今回募集した成人病センターの PEACE 研修も定員を超える申込みになりました。それでもまださばききれないところがあるので、また後からでてきますが、済生会滋賀県病院と草津総合病院は、自分のところでも PEACE をやると言ってくれていますので、そういったところでかなり追い込みが厳しくなるかなと思います。来年度は PEACE 研修をどうするかももう少し考えていかなければいけない事態になっています。

厚生労働省は 100%と書いていますが、90%は最低達成してほしいとはっきり明言しております。この目標はかなり厳しいです。緩和ケア推進部会でも危機感を持って PEACE 研修をやっていないと、とても 90%底上げするのは難しいなと考えております。済生会滋賀県病院、草津総合病院の PEACE 研修については、部会が全面的にバックアップしていく体制をとらないといけなく考えています。

ご理解いただけましたでしょうか。この点についてご意見ありますでしょうか。PEACE 研修をどうするかについてはまた後で審議したいと思います。先に進みたいと思います。それでは 15 ページ、大津赤十字病院さんの新しい PEACE 研修でどのようなことがありましたでしょうか。

(大津赤十字病院)

大津赤十字病院の山本です。三宅は所用により欠席ですので私から報告させていただきます。大津赤十字病院が一番手だったのですが、15 ページが三宅からの報告です。うちの病院は、医師の他に看護師 2 名、薬剤師 2 名のコメディカルが受講しました。レジデントの方がかなり多かったので、特に地域連携のところの話し合いはどうかというところでした。やはり、看護師が入っているグループでは概要がわかったのですが、医師だけのグループでは少し厳しいと感じました。症例があつて、2 年目の先生からは、「訪問看護師に全部してもらったらいいんじゃないか」と言われ、訪問看護の 24 時間体制ということが、病院みたいに準夜勤、深夜勤で行ってくれると思っておられたようでした。最初に、訪問看護やケアマネの説明をせずに、最期に説明するというプログラム構成だったこともあり、話し合いの時には、社会サービスについての共通認識が上手くいかなかったところがありました。看護師が入ったグループは比較的良い助言をしていただきましたが、全体的に、ファシリテーターが話すことが多くなってしまったというのが印象でした。医師ばかりだと、2 年目の方が多いいグループがどうしてもたくさんできてしまい、さらに開業医が少なかったこともあり、地域連携のところは厳しい感じがしました。後は、いつものようにいけたかなという印象でした。後は書いてあるとおりですが、緩和ケア概論を二日目の真ん中にもってくるカリキュラムだったので、少しそれがどうかというのと、コミュニケーションの時間が少なめだったので、大変だったかなという感じはありました。来年からは少しやり方を変えようかと案を練っているところです。

(堀 部会長)

できたら県内で統一したプログラムでやりたいと思いますので、今年が終わったのですが、来年度始まる前に PEACE 研修についての集まりをしなければいけないと思っています。途中でも、ある程度のめどが立てばそういうことも考えたいと思っています。緩和ケア推進部会は今年度あと 2 回あるので、どこかで情報提供できればと思います。皆さんのほうで大津赤十字病院にご質問はございませんか。

(市立長浜病院)

初回はご苦勞が多かったと思いますが、患者視点というのがありましたね。B 研修でやっていたと思

うのですが、ここはどういうふうにされましたか。具体的には経験者を交えてされたとか。

(大津赤十字病院)

成人病センターのプログラムだと思いますが、当院は患者視点ということに関しては、特に患者さんに講演してもらうという時間が組めなくて、今年移行期なので、去年の方がもう一回受けてもらわないといけないというので、それを省いたというのがあります。

(市立長浜病院)

もう一つ非常勤の方もそうですが、そちらのほうはどういうふうに対応されているのか。

(大津赤十字病院)

非常勤の先生は、三宅先生が直接交渉という感じで直接言っています。事務や看護師から言うよりは、「こういうことになっています。」と直接、先生の方から説明していただいています。

(堀 部会長)

うちは声をかけていません。常勤だけでもいっぱいになってしまうので余裕がないですね。

(公立甲賀病院)

非常勤で京都から来ている人は、どうしたらいいですか。

(堀 部会長)

非常勤に関してはかなり厳しい状況ですね。受講率をあげなければいけないので、最初のうちは目をつぶって、常勤優先でもいいのかなと思っています。

(市立長浜病院)

声をかけさせてもらったのですが、元々の病院で受けるという方もたくさんいらっしゃいましたし、過去のうちの病院で受講した人を見ると、半分はうちの病院で、半分は他院で受けられている。お互い受けて交流してみたいな感じです。非常勤の方も最終的にはそうなるのかな、もともとの場所で受けて赴任していくという感じで、まわっていくのかなと思います。

(堀 部会長)

それでは、次の議題で済生会滋賀県病院さんお願いします。

(済生会滋賀県病院)

済生会滋賀県病院の麻酔科の野土といいます。資料 19 ページ、私どもの病院は拠点病院ではなくて支援病院です。研修会の開催実績はございませんが、病院の今後の取組として、がん診療の舵をとっていきたいというトップの意向がありまして、緩和ケア研修会の県の事業にできれば参画させていただきたいということで、資料をつけさせていただきました。

今日ここでご承認いただきたいことを簡単にまとめてあります。できれば今年度中、最後のほうに研修会を開催させていただけたらなと思います。具体的に研修会日程、病院の行事の日程、講師の日程等詰めますと、できそうな日にちが、来年 2 月の 6、7 日の土日くらいが適当なのではないかと提案させていただきます。滋賀医科大学附属病院、公立甲賀病院の間ですね。こんな感じでご承認いただければと思います。開催場所は当院でさせていただきたいと思います。お認めいただきましたら、プログラムの作成、講師の派遣等でご助言等援助をいただければと思います。よろしくお願いします。

(堀 部会長)

2 月 7 日はがん医療フォーラムのある日ですね。だから講師の派遣は、がんフォーラムに参加される先生方が協力できるかどうか問題になるかと心配しているのですが、どれくらいファシリテーター、講演、講師含めてヘルプが必要なのか、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

(済生会滋賀県病院)

まだその詰めが甘い部分がありまして、開催希望等で変動すると思いますので。

(堀 部会長)

いかがでしょうか。皆さん今年の PEACE 研修をたくさん受けてもらわないといけないという方針ですね。新たに開催していただけるのは非常にうれしい話なのですが、何かご意見等ありますか。津田先生はきっと声がかかるとと思いますがどうでしょうか。

(大津市民病院)

大津市民病院の津田です。素晴らしいことだと思います。私たちの病院でも検討して、本当にプログラムを見ると2月しかなかったので、私たちもプログラムに入れようかという話まではいったのですが、最後の詰めで今年度は難しいかなということで流れてしまいました。こういう形で実施して下さる病院があれば、必要があればですが協力させていただければと思います。またうちの病院からも行かせていただければと思います。

(済生会滋賀県病院)

がんのイベントと日程的にかち合うということで、広くできるだけ研修会協力者を募らせていただいて、またお願いにあがるかもしれませんがよろしくお願いします。今後、県の行事の年次計画の中に来年度以降も組み込んでいただければ、軌道にのってうれしいかなと思います。

(堀 部会長)

草津総合病院の木下先生いらっしゃいますかね。草津総合病院も計画があると聞いております。ですからどこに入れるのか調整しないと、2回増えるのはありがたいことですが、それについては第2回の緩和ケア推進部会、9月末までにある程度具体的にさせていただいて、草津総合病院については次回の緩和ケア推進部会で検討するというので、ひょっとしたら、今年度はぬいて来年度にということになるかもしれませんが、そういうことで進めていきたいと思います。どちらにしても今年度と来年度頑張つて PEACE 研修やらなければならないと思います。済生会滋賀県病院さんのほうで PEACE 研修をやっていたことについて、基本的に問題だと反対だという人はいらっしゃいませんか。それではできるだけ緩和ケア推進部会で協力して、済生会滋賀県病院に PEACE 研修をしていただくという方向で考えたいと思います。皆さんぜひご協力お願いしたいと思います。緩和ケアの責任者になる先生はいらっしゃいますか。

(済生会滋賀県病院)

指導者研修受けています。

(堀 部会長)

2 番の研修会についてはよろしいでしょうか。では次の滋賀県緩和ケアフォローアップ研修会について、沖野先生よろしくお願いします。

3 滋賀県緩和ケアフォローアップ研修会について

・現時点における今年度の計画など

(公立甲賀病院)

まだ何も動いていませんが、公立甲賀病院は12月6日の日曜日に公立甲賀病院の講堂でやります。昨年度に三宅先生にこんなところに問題があるということがたくさんお伺いしましたので、協議しながらやっていきたいと思っております。十分な広さがありますので皆さんに喜んで受講していただけるように頑張りたいと思います。

(堀 部会長)

12月6日ということをお願いしたいと思います。では、次のELNEC-J研修についてよろしく願います。

4 滋賀県看護師対象の緩和ケア研修会（ELNEC-J研修）について

- ・現時点における今年度の計画など
- ・ELNEC-J指導者フォローアップ研修

（成人病センター）

今年度のELNEC-Jの研修について説明させていただきます。ELNEC-Jの研修は、今年度は2回開催予定で、現在、彦根市立病院で第1回目の開催の準備を進めております。41名くらいの応募があつて、定員30名ですので、30名ちょうどで開催を進めております。事務局は成人病センターにありますが、彦根市立病院で開催されますので、事務の方と連絡をとっていただき、彦根市立病院の事務の方で出ていただきます。また、昨年度は部会長にご挨拶をお願いしていますが、副部会長が彦根市立病院の黒丸先生なので、今年度は、黒丸先生にご挨拶をお願いすることになりました。

2回目は12月に成人病センターで開催する予定にしておりますので、1回目の研修修了後にまた準備に取りかかっていると考えております。8月29、30日の土日で開催します。12月の成人病センターの分は、12月12日土曜日と19日土曜日の週をはさんで行う予定にしております。

（堀 部会長）

ありがとうございました。ELNEC-Jの研修もだんだん定着してきてありがたいと思っております。ELNEC-Jの指導者フォローアップ研修というのがあるそうなのですが、吉田さんから願います。

（成人病センター）

成人病センターの吉田と申します。今年度より参加させていただきます。よろしく願います。ELNEC-Jの指導者については、緩和ケア学会が主催をして受講された方が指導者となって、研修を実施することができることになっております。大変なところもありますが、指導者のフォローアップ研修というのも緩和ケア学会が続けてやっております。現在全国では1400名の指導者がいらっしゃるということになりますが、滋賀県におきましては19名となっております。多くの指導者の方がどんどん生まれていただきたいところですが、カリキュラムも年々バージョンアップしていますので、その意味で指導者のフォローアップも必要ということになります。昨年行われて好評だったということで、今年もフォローアップ研修が行われると聞いております。

昨年の報告は20、21ページにかけて書かれておりますが、皆さんにお伝えしたいことは、21ページ右上に書いております10月17日は京都大学で、12月5日は筑波大学東京キャンパスということになっておりますので、指導者研修を終わっている方、狭き門になっておりますが受けていただき、また滋賀県の研修がよりよくなりますように御協力いただけたらと思います。以上です。

（堀 部会長）

皆さんの病院でELNEC-Jの指導者がおられましたら、こういうフォローアップがあるということを周知していただければと思います。よろしく願います。次に世界ホスピス緩和ケアデー記念県民公開講座について、よろしく願います。

5 世界ホスピス緩和ケアデー記念県民公開講座の開催について

- ・現時点における今年度の計画など

（市立長浜病院）

担当の花木です。10月10日土曜日、場所はサンルート彦根、彦根駅のすぐ前で、会場が13時から開演が13時半からです。世界中で「ハレルヤ」が歌われているということで、まず歌で始まって題目は「大切なものを大切にするために」ということで、最近がんとわかった時の緩和ケアというのが謳われていますが実際何ができているか、もう一つ患者側からどういうことが最初からヘルプしてほしいのか、そのへんを浮きだたせようと思って最初にグループワークをやらせてもらって、その後、二部でスタンドアップという若年者のがん支援団体がそこでの経験を話していただいて、最後にパネラーでまとめていただいて、そういう会にしようと思っています。パネラーの方で各病院にご協力いただくと考えますが、また役割分担させてもらいます。よろしくお願いします。

(堀 部会長)

グループワークというのは参加者も含めてですか。

(市立長浜病院)

もちろんです。患者さんも含めてです。いろいろ考えています。

(堀 部会長)

新しい試みで非常に興味を持てると思います。よろしくお願いします。世界ホスピスデーについて何かご質問ありますか。グループワークは定員があるのでしょうか。

(市立長浜病院)

その場で分けるのは大変なので、誰が来るかわからないのでざくっと分けて、テーブルについてもらってポストイットみたいなものを書いてもらうことを今考え始めています。

(堀 部会長)

想像つかないですが、あまりたくさんだとできないですね。

(市立長浜病院)

宮崎のほうと一緒に。なるべくたくさん参加してほしいので、患者団体にも声をかけさせていただいて。

(堀 部会長)

患者会の方、新しい試みですがご意見ございませんか。

(がん患者団体連絡協議会)

患者会の八木と申します。偉そうに言うことではないですが、私たち患者にとっては、今のお話はすごくフレッシュで、患者の心を知ってほしいというのは誰しもが思っていることなんですね。先程来、研修のこともありましたけれども、こういうホスピスデーとかで新しい試みで、スタンドアップも少しだけお話したことがあったのですが、すごくしっかりされていますので、私たちも聞くと勉強になると思います。ぜひ積極的に賛成したいと思いますのでよろしくお願いします。

(市立長浜病院)

ありがとうございます。湖北の支部の藤井さんにお声かけさせていただいています。よろしくお願いします。

(堀 部会長)

ハレルヤコーラスも来ているらしいので、皆さんぜひ参加してほしいと思います。では、次に滋賀県緩和ケア地域連携クリニカルパスの運用促進について、よろしくお願いします。

6. 緩和ケア推進に係る意見交換について

- ・「滋賀県緩和ケア地域連携クリニカルパス」の運用促進について(各病院の利用状況など)

(事務局)

資料22ページですが、地域連携部会の事務局をされている大津赤十字病院からいただいた資料です。一番下の「緩和」と書いてあるところ、ここが本日の議題に関係する部分です。資料は、5月末現在の状況です。緩和の欄で、上段が「連携有」、下段が「連携無」ということで、「連携無」というのは下に※が書いてありますように連携先医療機関が未定で「私のカルテ」を配布した件数で、登録件数には入っていないということです。緩和ケア地域連携パスが始まって間もないということもありますが、一つ議論の材料としてこういったものを提供させていただいております。

(堀 部会長)

成人病センターでは8例、もっと10例はいつているのではないかと思います、使ってみてやはり外来で来ていただく時に持ってきていただくというところもありますし、患者さんが家に帰ってどんな感じだったか、緩和ケア病棟から在宅に戻る方、必ずこれをつけるということでやっております。緩和ケアセンターができた関係で、緊急緩和ケア病床を運用することが条件になりましたので、緊急緩和ケア病床を利用できる方は全員これを渡してやっています。使った感じでは、私たちより患者さん自身が生活を振り返る機会になっているかなという気がします。ただ、いくつか直したほうがいいというのは見えてきたので、それをブラッシュアップに反映させていきたいなと思います。皆さんどうでしょうか、緩和ケア地域連携パスを使っていたら何かご意見ございますか。大津市民病院さんはわりと使ってらっしゃいますね。

(大津市民病院)

退院していただく時に使っていただく形でご説明したのですが、もう一回私たちのところということになかったので、やりっぱなしみたいな形で、わからないところがあります。

(堀 部会長)

緩和ケア病棟から退院して私の外来に来てくれる人もいますので、確かに在宅の先生にいつてしまってこっちにこないという時には、二度と診る機会がないというのはありえますので、フォローアップできないケースはもちろんあると思います。

(市立長浜病院)

資料では3例となっていますが、(直近の実績では)4例なのですが、うちはトライアル期間と考えて、この4例すべて私の外科の患者なんです。まだ他の科に広げることができていないので、広げていこうと思いますが、私が一番メリットと思ったのは、亡くなった後持ってきてもらって、1時間か2時間くらい家族の方と話をするのですが、グリーフケア的にも非常に利用できるなというのが私の感想です。

(堀 部会長)

そういう利用の仕方をしたことがないので参考になりました。ありがとうございます。緩和ケアパスについてはよろしいでしょうか。ここで瀬戸山先生に話をしてもよろしいでしょうか。

(東近江総合医療センター)

緩和ケア地域連携パスに関して、今年の緩和医療学会で新しく滋賀県での統一ツールを作りましたというポスター報告しましたが、今年ではできたツールの普及が問題になっているという現状をふまえて、地域連携部会、緩和ケア推進部会でどういう普及活動をしているのか、まとめてポスターにして先日発表してもらいました。なんせ3分ですので多くは語れないということで、主に県のがん診療連携協議会として行ったマスコミ報道、研修会、学会報告、この3つを柱にあげていました。中でも示唆に富んだのが地域連携パスの研修会です。これは昨年11月に東近江医療圏のがん診療関連の市民公開講座と併施で行いました。そのせいか200人を超える参加者がいらっやしまして、そのアンケートをと

ったんですね。皆さんのお手元の下段にありますように、青字が非常に賛成的なご意見、黄色が建設的なご意見で一番下段の幅広いところが厳しいご指摘ということです。現在先程の表にもありましたように前立腺あわせまして6大がんパス、1000例の症例登録に届こうという現状の中、緩和ケアパスが30例前後に留まっているところで、今後の普及活動を更に高揚するということですが、これに関しては地域連携部会、緩和ケア推進部会ともに知恵を絞って協働していかなければいけないなと思っています。

7 緩和チーム意見交換・緩和ケア病棟意見交換会の開催について

(堀 部会長)

ありがとうございます。連携パスについてはよろしいでしょうか。皆さんぜひ院内でも使っていただければいいかなと思います。次が緩和ケアチーム意見交換・緩和ケア病棟意見交換会の開催についてですね。別の資料の中で、緩和ケアチーム意見交換・緩和ケア病棟意見交換会の開催についてということで、各病院の研修に参加しておられるのは、ほとんどが緩和ケアチームとか緩和ケア病棟を持っているところだと思います。これは提案なのですが、第2回の緩和ケア推進部会の開催の時に1時間半くらい先に集まっていただいて、緩和ケアチームのメンバーで緩和ケアチームの問題、課題、各病院での取組のヒントが交換できれば、実際緩和ケアチームはなかなかうまくいかないということもあるかもしれませんし、かなり頑張っている所もあると思うので、そういったところを自由に意見交換をしたいと思っています。その前に各チームにアンケート調査をして、ある程度テーマをしぼりながら話し合いをしたいと思っています。

もう一点、参加されている病院の中で緩和ケアチームを持っているところもあると思います。緩和ケアチームについての運営の問題であったり、共有できるところがあれば共有したいので、第3回の緩和ケア推進部会の前に1時間半ほど早く来ていただいて、緩和ケア病棟についていろいろ意見交換をしようという提案です。今まで意見交換と言いながらなかなか踏み込んだことはできていなかったのですが、こういう形で意見交換、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟の交流できればと思っています。ということなので、こういうことをしたらどうかという提案させていただきたいと思っています。皆さんご意見ございますでしょうか。

(公立甲賀病院)

担当はどの職種が集まったら一番話しやすいのか。あまり医者が出て行ってもよくないかなという気がしますが先生のご意見はどうか。

(堀 部会長)

私は最低、緩和ケアチームの専従かあるいは専任の看護師がいてほしいなど。それで可能であればチームを専任でやっているドクターも参加する。MSWも結構チームの中で大きな働きをしているので、MSW、専従看護師、可能ならドクターに参加していただくという形を考えています。ドクターは忙しいので、なかなか来ていただけないかもしれませんが可能であれば参加してもらおう。一番、緩和ケアチームを中心的に引っ張るのは、認定看護師を専任でやっておられる方だと思うので、その方にはぜひ参加してもらいたいと思いますがご意見ございますか。瀬戸山先生どうですか。

(東近江総合医療センター)

非常に大賛成でやってほしいと思いました。

(公立甲賀病院)

是非ともお話をお伺いして。臨床心理士さんがどういう活動しているか、どうもうまくいかない悩みがありまして、そこを是非とも教えていただきたい。

(堀 部会長)

臨床心理士の問題は非常に微妙なのですが、その人その人の色々な個性があったり能力の差があったり大変難しいところです。臨床心理士さんの特性にあわせてやるしかないのかなと思うんですね。なんとかドクターのようにしっかりやるべきことがわかっているようなわけでもなく、本当にいろんな仕事ができるので、臨床心理士さんは非常にありがたいですし難しいところもあります。

臨床心理士の話も緩和ケアチームの意見交換で話ができるかもしれません。もう少し腹をわった意見が出せるかもしれません。緩和ケアチームあるいは緩和ケア病棟の意見交換会をすることについては、皆さんご承認いただけますでしょうか。よろしいですかね。これからも続けていきたいと思います。

次に意見交換会協議内容の紹介ということで、開く前にこういったものをお配りして、緩和ケアに関する拠点病院の現況報告の内容を参考までに載せさせていただきます。

引き続きご紹介ですが、緩和ケアセンターのパンフレットができました。がんとわかった時からの緩和ケア、緩和ケアの紹介のパンフレットと緩和ケアセンターのパンフレットです。緩和ケアセンターは、滋賀県のなかでは初めてできたのですが、緩和ケアセンターは緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、いろんな緩和ケアの機能を統合する機関と位置付けています。院内組織図としては病院長直属になっています。スタッフとしては、センター長は私ですが、緩和ケア病棟の担当医、ジェネラルマネージャー、緩和ケア認定看護師、がん性疼痛認定看護師、MSW、事務員が配置されています。この中で専従なのはジェネラルマネージャーと緩和ケア認定看護師とがん性疼痛認定看護師が緩和ケアセンターの専属です。病棟業務を一切せずに、緩和ケアセンターの業務をしてもらっています。始まったばかりですのでまだまだ不十分なのですが、緩和ケアセンターは恐らく順次拠点病院に設置を義務付けられていくことになるだろうと思いますので、皆さんも見据えながら考えていかれたらと思います。緩和ケアセンターで蓄積したノウハウについては、皆さんに情報として流していきたいと思っています。初めてのことで大変なのですが、いろんな仕事をしていただければと思っています。それでは、最後に「報告・紹介事項等」ということですが、報告事項の②緩和ケアセンターについては、今説明が済みましたので、県のがん対策の概要についてということで事務局をお願いします。

8 報告・紹介事項

①県のがん対策の概要について

②緩和ケアセンターについて

③緩和ケア病棟見学会の報告について

(事務局)

資料 23 ページになります。ごく簡単にコメントさせていただきます。23 ページは今年度のがん対策の概要ということで、左に県がん対策推進条例、県がん対策推進計画と書いていますが、条例とか計画に応じて、今年度の具体的な取組ということで1番から24番まで書かれてあります。合計2億6千5百万円強ということでこういった事業が計画されています。個々の事業については、また時間等もあると思いますので、年度途中であっても重点的に行うものについては、2回目以降で別途説明されることもあろうかと思いますが、こういった形で今年度させていただくということで、皆さんに資料としてご提供したいと、今回、健康医療課から申出がありました。参考までに見ていただけたらと思います。以上です。

(堀 部会長)

県のがん対策について皆さん何か感想ございますか。リレー・フォー・ライフも今年県の事業になる

んですかね。特にならなければ次に。緩和ケア病棟見学会の報告について、患者会さんからお願いします。

(がん患者団体連絡協議会)

滋賀県のがん対策について医療者の皆様が本当に一生懸命やったださっているのは、例えば国立がん研究センターの市民患者パネルに参加しているのですが、そこでも滋賀県のがん対策の皆さんが一生懸命やったださっているというのはすごく自慢できる、私自身が自信ができてきました。そういったところでも発言していますが、私たち滋賀県で9か所がん患者サロンを運営しておりますが、ピアサポーターは養成講座をちゃんと受けた人がやっていますが、実際のがん患者サロンでいろいろ経験していきますと、緩和ケア病棟についても知らないといけないという問題意識ができてきて、お願いしてこの5病院に大変お世話になりましたが見学をさせていただきました。その時には緩和ケアの先生方、看護師さんにいろいろ説明していただきました。

内容についてはここに書いてある通りですが、私たちがいちばん感激というか驚いたのは、本当にピアサポーター自身もボランティアの人もそうなんです、花で飾ったりして雰囲気をつくっていただいて、本当に細やかな神経が行き届いているなという感じがしました。そしてやはり緩和ケアとして、患者が望めば可能な限りできるだけのことはしてあげるという考え方が統一されていて、私たち見学に行った者全員、かなり安心ができる感覚を持ちました。がん患者サロンにおいても、こういったものがあるよといったことは積極的に紹介していきたいと思えますし、私たち自身そういったことをもっと意識して、そのピアサポーター全員に伝えていきたいと考えております。今後ともよろしく申し上げます。

(堀 部会長)

どうもありがとうございます。実際に緩和ケア病棟見ていただいた皆さん、本当によかったと言っていたいてありがたい話だと思います。

もっと時間がかかると思いましたが順調に進行しました。それでは、まだご発言ない方もいらっしゃいますが、新しく委員になった方もいらっしゃいますので、順番に自己紹介と感想なり何でも結構ですのでお願いします。

(彦根市立病院)

彦根市立病院の秋宗と申します。緩和ケア推進部会は最初から参加させていただいていますが、先程ご案内ありましたように、8月末に開催するELNECの準備に追われているところです。大津のほうからもご応募していただいておりますので、できるだけ皆さんに各自持って帰っていただけるものが少しでも増えるように、私たち講師の方もスキルアップして頑張っていきたいと思えます。

(済生会滋賀県病院)

済生会滋賀県病院の野土と申します。以前から部会の名簿には入れていただいていたのですが、参加させていただいたのは2回目ということでご無沙汰していました。うちの病院は災害医療とか救急に特化した病院でしたが、がん診療にも舵をきってこうという方針でこれからは積極的に参画してまいりたいと思えます。

(近江八幡市立総合医療センター)

近江八幡市立総合医療センターの赤松と申します。緩和ケア研修については、今回数値として非常に厳しい現状を知らされましたので愕然としています。90%にもっていくのは大変なことだなと思うのが一つと、済生会病院さんは自分達でPEACEを立ち上げてやってみるといったのは非常に刺激を受けました。参考にさせていただきたいと思えます。

(長浜赤十字病院)

遅くなってすみません。長浜赤十字病院の中村です。北のほうで微力ながら緩和ケアをがんばっています。全員 PEACE も受けられるようにと院長以下受けていただくことになりましたので、またよろしくをお願いします。

(東近江総合医療センター)

東近江総合医療センターの瀬戸山です。かねてから最大の懸案事項であったがん患者サロンがようやく「紫の縁」と名付けて立ち上がりまして、先々週 2 回目が行われました。2 回目にして新たな参加希望者が数名できてくれましたとても喜んでおります。また先程、堀先生が言われた緩和ケアチームへの正式な依頼数の伸び悩みというところで苦慮しております。また在宅移行へもっていくための院内の職員の知識の不十分さも感じまして、実は東近江緩和ケアセミナーと題しまして、地域開放型講座を月 1 回始めて今月で第 4 回目をやります。地道な活動から少しずつホスピスまではいきませんが、地域に根差した緩和ケア治療を目指して地道にやっております。

(滋賀県歯科医師会)

滋賀県歯科医師会事務局の西村です。部会員の大西理事が都合で来られなくて、代理で出席しております。歯科のほうでも歯科医師会と厚生労働省により、全国で医科歯科連携講習会というのを都道府県歯科医師会でやっております。先日私どもの講習会をしまして、そこで成人病センターの鈴木副院長にもお越しいただきまして、DVD 講習なのですがその補足講演をしていただきまして、大変ためになったということで、またそういった形で歯科の方でも連携を進めさせていただけたらと思います。各部会にも歯科医師会出していると思いますが、また引き続き参加させていただきたいと思います。

(成人病センター)

滋賀県立成人病センターの辻森です。4 月から緩和ケアセンターに異動になって緩和ケアチーム専従で働いております。推進部会はずっと参加させていただいていますが、今年度から緩和ケアチームの研修等も始まりますので、私自身もどういうふうにしていったらいいか、悩みながらしていったりしていますので、悩みを共有する場ができていくのはいいことだと思っています。今後も県内の看護師さんを中心とした緩和ケアのレベルが上がっていくように、皆さんと御協力してやっていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

(成人病センター)

同じく滋賀県立成人病センターの緩和ケアセンター副センター長をしております吉田です。今期より緩和ケア推進部会の会員ということで参加させていただくことになりますが、緩和ケアセンターについてはいろんなことあると思っていますが、今年は、外来支援に力を入れておりまして、チームのほうは辻森さんですが、いろんなことについて順次進めて行きたいと思っています。まだこの部会のことは十分にわかっておりませんので、至らないことが多々あると思いますが、またご指導いただければと思います。1 つ疑問に思っているのは、こちらの部会で PDCA サイクルの指標は今年度どのようなところに置いてらっしゃるのか、会議を聞いておりまして見えなかったもので、教えていただければと思います。

(堀 部会長)

PDCA サイクルは受講率を指標にしてやっています。

(事務局)

成人病センターの今堀と申します。今年度から事務局担当ということに名簿上なっておりますが、以前から事務局のお手伝いはさせていただいていましたので、引き続きよろしくお願いします。

(成人病センター)

成人病センター地域医療連携室の石見と申します。昨年度 1 年間事務局を担当させていただきました。

お世話になりました。今年度については、PEACE 研修等担当させていただきました、今 PEACE 研修を募集しているところですが、その前の大津赤十字病院さんの担当したのを聞きますと、30 人くらいの定員でほしい同じ位と聞いて安心していたのですが、うちの病院は医師の方が殺到されて今現在 45 名申し込まれています。まだ二日間ということなのですが、定員が 30 名で A 研修 B 研修でそれぞれ二人ずつおられるので、つめて 32 名までは定員でいけるのですが、それ以上どこまでいけるかは調整しながらさせていただきたいと思います。全員は無理かなという状況でその方たちには申し訳ないのですが、また他のこれから後に行われます PEACE 研修を案内させていただくということで、済生会滋賀県病院さんがやっていただくということで、非常にありがたいと思っています。よろしくお願いします。

（成人病センター）

成人病センターで今年度滋賀県がん診療連携協議会の事務局の担当になりました打田と申します。この部会の事務局担当者とともに、部会の活動が円滑に進むように一緒になって頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いします。

（滋賀県歯科衛生士会）

滋賀県歯科衛生士会の村西です。歯科衛生士会では今年度もがんに関する研修会を持つことが決まっています、実際に、在宅に戻ってこられる患者さんも少しずつ増えていると実感しています。そこで、口腔ケアができる人材が必要となりますが、人材の育成ができていないという実情もありますので、もっともって育成していきまして、先生方、患者さん、全ての方に安心して口腔ケアを受けていただけるように励んでいきたいと思えます。よろしくお願いします。

（がん患者団体連絡協議会）

がん患者団体連絡協議会の茅田と申します。3 月に近畿がんサミットというのが兵庫でありまして、近畿二府四県、私たちのような協議会の人たちの面々が集まって、各都道府県の発表も行われたのですが、やはり滋賀県だけといっていくくらい、患者の意見を聞いていただける場が全くゼロのところもあって、全く患者は入れてもらえないんだというご意見もあったところもありました。滋賀県で治療を受けられるのは幸せなことだなと思って、このことに関しては患者サロンでもよくお話をしています。

がんとわかったときから始まる緩和ケアというのが私の患者サロンでお伺いする中で、告知されてその後手術まで期間があって、自宅に帰ってしまうその期間、病院の先生ともお話できないその間がすごくつらいと。家にどうやって帰ったかもわからないというような声が多い中、私は入院してすぐ告知で、半年入院という期間、24 時間・半年の間、医療従事者の方がずっとそばにいて、それでできることをあきらめていたのが、半年かかって先生方、看護師さん方に協力していただいたのを経験しているので、がんですよと言われてすぐに緩和ケアというのは、本当に大切だなと実感しています。先生方御協力よろしくお願いします。

（がん患者団体連絡協議会）

八木と申します。今日は野崎さんの代理で出席させていただきました。感想を述べさせていただきたいと思えますが、実は緩和ケアというのはがん診療連携協議会でも発言させていただいたりして、リンクナースの活用も本当に真剣に考えてほしいなというのがありますし、私自身が思っていたのは、緩和ケアの研修はもちろん最低限で大事なところなので、しっかりやっていただきたいということと、私自身お医者さん達はほとんど受けているのかなと、それ以外の個人的な希望は、がんに関わる医療者はすべて受けてほしい。単純な一言が患者のその時の心のネガティブなほうに響いてしまって、落ち込んでしまうということが、がん患者サロンをやっていますとたまに出てくることもあります。やはりそこは

慎重にと思っています。最低限その研修はぜひ受けてほしいというのと、研修とともにその中身、実際に今日は提案として堀先生からは意見交換会という具体的なお話が出てきまして、ホッとしていますが、実際問題、各拠点病院支援病院でどういうふうに緩和ケアがチームなり病棟なりで動いているか、患者さん自身がそういったことを受けて、どういうふうな反応をしているかというところまで掘り下げて、中身を充実するようなことを考えていただけたらありがたいなということをお話として思いましたので、失礼と思いましたが申し上げました。

(大津市民病院)

大津市民病院の看護師の杉江です。ELNEC-Jの話がでていましたが、県内の認定看護師でネットワークを作って運営しているところがありますので、またそれで一緒にやっていきたいと思えますし、いろんな場面でまた連携していけると思えますのでよろしくお願いします。

(大津市民病院)

大津市民病院の緩和ケアの津田です。緩和ケアチームがあるのですが、早期からの緩和ケアというのがなかなか広まっていけないというので、がんサポートチームと名前を変えてもう一回やり直そうかと院内から意見を求めたことがあったのですが、緩和ケアチームのままにしてくれという意見のほうが、答えとして出してくださる方は圧倒的にそれが多くて、このまま緩和ケアチームで進めていくことになりました。

緩和ケアという言葉がどんどん浸透していけば、今私たちが懸念している緩和ケアが終末期をイメージさすというのが、だんだん薄らいでいくのではないかと思うので、このまま引き継いで頑張っていきたいなと思えます。これからもよろしくお願いします。

(高島市民病院)

はじめまして。今年度から部会に参加させていただいています高島市民病院の末武と申します。私自身は外科系病棟の師長をしています。急性期から終末期というところでは、環境も教育のほうも行き届かないので、私自身がこれから勉強していこうと思えます。よろしくお願いします。

(高島市民病院)

同じく高島市民病院の外科の武田と申します。初めての方どうぞよろしくお願いします。私長いこと彦根市立病院に10年近くいまして、緩和ケアの黒丸先生や秋宗さんがいらっしゃったので、ほとんど緩和ケアというのをやらずに過ごしてまいりました。こちらの高島市民病院に移りまして、いよいよ自分でやらないといけないと思え、秋宗さんにも聞きながら少しずつやっていたのですが、今年から高島市民病院ががん診療病院、拠点病院ではないですが湖西地区のがん診療を一生懸命やれという県からの認定をいただきましたので、緩和ケアをやってくれないかと院長から依頼されて、去年からやるようになりました。ぼちぼち自分でやっていたのですが、去年からいよいよやるようになって、去年AとBの指導者講習受けまして、横浜で開催された緩和医療学会に初めて参加させていただきました。結構面白い学会だなと思っています。そういうことで、全くの初心者で皆さんと同じようなレベルとは思ってはいけません、非常に低いレベルからですがぼちぼちやっていきたいと思えます。よろしくお願いします。

(市立長浜病院)

市立長浜病院の緩和ケア医長をしております花木と申します。毎年テーマを考えていて、長期ビジョンと短期ビジョンがあるのですが、長期ビジョンは高齢化に向けて効率化、やはり支えが減っているので、サービスを落とすことなく患者さんに満足してもらおう。それにはどうすればいいかと、多職種の最大の能力を発揮するそういう連携が必要と思っています。

短期ビジョンは患者さんの声を聞くということ。いろいろ患者さんがいろんなことを考えていること

を知って参加させてもらって、自分が持てなかった視点をいろいろ持たれているので興味をもちました。7月16日木曜日ですが湖北緩和ケア研究会というのを私が世話人でやっていますので、学会のほうで発表してきたのですが、また県のほうにふりかかっています。11月28日京滋緩和ケア研究会というのが「栗東のさきら」であります。今後10年間を考えるとこの会にしようと思っていますので、ご参加よろしくお願ひします。

(大津赤十字病院)

大津赤十字病院の山本です。私は去年まで病棟にいたのですが、緩和ケアチームの専従看護師として動いております。がんと診断された時からの緩和ケアという国の方針がありますので、それをどうやって医療者のほうに定着させるのかという。お医者さんへの研修は先程の研修会、看護師さんの研修もELNECとか用意していますが、少ない人数しかできないということで、八木さんおっしゃっていたように、リンクナースに看護師としてはやはり力を入れて研修会を計画し催しているところです。

うちは看護師が800人程おり、その中で全部の機能をしています。がんセンターだと100%がん患者さんかもしれないですが、うちでは、救急をしたり、小さい子のNICUがあったり、そんな中でのがん看護を看護師さんに定着していくには、主となるナースを研修会に派遣し経験を積まさせていただいて、徐々に浸透させていくという方針で、今年はドクターの研修会と共にやっていきたいと思ひます。緩和ケアチームの現状をみんなで共有してこういう問題点がある、ここは参考にしようかな、ここはよくないなと、県内のそういうのも共有できる場があるということでは、すごく成人病センターさんには緩和ケアセンターも大変なのに、いろいろやっていただくことに対して、敬意と事務局の方もいろいろ大変でしょうが、私たちを導いていただきながら、がんと診断された時からをどうやって実際的にしていくのかという議論が、もう少し深まっていくといいのかなと考えています。今日、三宅の方は欠席させていただいておりますが、また次回に紹介させていただきたいと思ひます。

(滋賀医科大学附属病院)

滋賀医科大学附属病院で緩和ケアチームの専従看護師をしております服部と申します。山本さんと同じ立場で働いていて、八木さんの言葉がとても身に染みたと言ひますか、緩和ケアチームってどんなことをしてくれるのかイメージがつきにくくて、関わっていくうちにやはり来てもらってよかったと言ひていただくことが多くて、どういうふうにしたら可視化して早くから関わるができるのかというのが課題だと思ひています。滋賀県の中でも意見交換をしていけるということですから、益々目に見える形で、チームだけではなくて病院全体で緩和ケアをしているということをどう示していくか、という大切な時期にきているなと思ひますのでよろしくお願ひします。

(滋賀医科大学附属病院)

滋賀医科大学附属病院緩和ケアチームの副チーム長をしています遠藤です。先程八木さんからお話いただきましたように、やはり資料13を見ても滋賀医科大学附属病院は最もがんに携わる医師の数の多いにも関わらず、受講率が最も低いことがありまして、堀先生からも受講率を上げたいというのが今回の目標と強く受け止めています。昨年度も50名位の受講者がありまして、滋賀医科大学附属病院というのは研修をして研修をした医師がまた外へ出ていくという形もありますので、この受講率の中には滋賀医科大学附属病院で研修を受けたけれども外へ出てしまっただけということも多少あるというところを、ご配慮いただければと思ひます。受講率が上がるように、病院の各先生が受けておられると受けていない人は少数派になるので、受けてないもののほうが多いと、まあいいわという悪循環に入っているところがありますので、今年は目標にもありますように病院長自ら受けてもらうような形で努力していきたいと思ひます。

(公立甲賀病院)

公立甲賀病院の沖野です。私どもの病院で緩和ケア病棟ができて2年3か月たちまして、訪問看護とか在宅医療訪問診療担当医師がおりますので実際に活動を見てみますと、緩和ケア病棟ができる前に在宅でがんの看取りをされた方は年間20名以上いたのですが減ってきました。昨年1年間の数を調べまして在宅で看取りをさせていただいた方、何が一番大きな要素かと言えば患者さんの強い意志なんです。迷う時はもちろん病棟でいいのですが、いつも言っていることは、患者さんの意志が発露できるのであれば尊重してくださいと。迷うのであればどちらでも結構ですとして、非常に強い意志を示した方たちはそういうふうにはいっていませんでした。

緩和ケア病棟ができた時に看護師長でありました中村さんがいろいろな事情で師長をぬけて、病院にはいらっしやって緩和ケアの専従ナースになり院内飛び歩いてくれています。いろいろな情報を持ってきてくれて、いろいろ入ってくれて相談していただいてまして、私もこんな動きができる人はやっぱり本来いるべきだったんだなと思っていて、非常に感謝しています。

(成人病センター)

成人病センターの嶋田と申します。昨年まではがん診療連携協議会の事務局をさせてもらっていました。今年度からは緩和ケアセンターに関わらせてもらっています。今回も話にありましたような緩和ケアチームの意見交換会であるとか緩和ケア病棟の意見交換会、他にもいろいろな取組をやっていきたいと考えておりますので、その時にはご協力のほうよろしくお願いします。

(成人病センター)

成人病センターのがん相談支援センターのがん専門相談員の岡村と申します。私も緩和ケアセンター兼任という形で去年までは事務局をさせていただいていたのですが、今年はオブザーバーという形で参加させていただきます。相談支援の中にも緩和ケアのご相談はたくさんあります。その中でいろいろ皆さんと情報交換していけたらと思いますのでよろしくお願いします。

(堀 部会長)

皆さん本当にありがとうございました。最後に何か言っておきたいことはございますか。緩和ケアというのは地域連携が非常に大事ですので、緩和ケアセンターでも今年から緩和ケアミニ講座と地域連携ということで、守山野洲地区のメディカルスタッフを対象に緩和ケアミニ講座を始めました。今年は5回ですが来年はもう少し増やしたいなど。つい先日第1回だったのですが、結構たくさんの方に集まっていた交流が持てました。これからも各病院そういった試みをしながら地域連携を深めていけたらというのは感じています。

(公立甲賀病院)

少しお知らせですが、乳がんの患者さんの会が7月12日にピアザ淡海で開かれて堀先生と私が出席します。先日話聞いたら申し込みが200少しで、まだ少し空いているということでしたので、皆さんぜひともお越しいただきたいと思います。

(堀 部会長)

乳がん総会というのがございますので、患者会の方が中心になってやっているので皆さん参加していただけたらと思います。

今年度はPEACE研修をたくさんやっていかなければいけませんし、来年度は本当に駆け込みの年になるので大変かもしれませんが、やはりこの緩和ケア推進部会はPEACE研修が中心になると思いますので、頑張っていきたいと思います。他になければちょうど18時半になりましたので終わりたいと思います。御協力どうもありがとうございました。